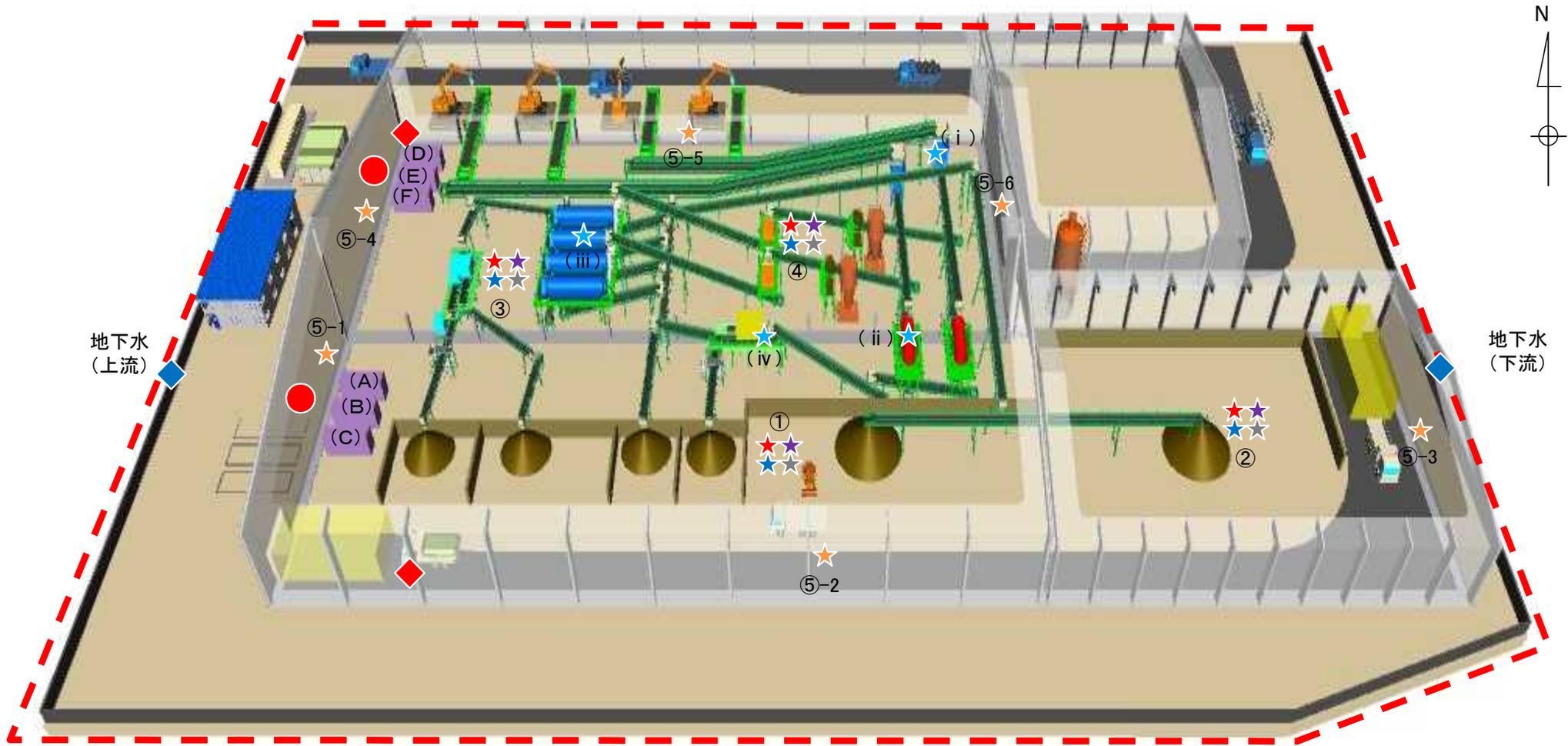


# 受入・分別施設(第2期双葉①工区)における 周辺環境及び作業環境測定地点(月次測定)



## 凡例

- |                 |                 |                |
|-----------------|-----------------|----------------|
| ◆ : 地下水中の放射能濃度等 | ● : 排気中の放射能濃度   | ◆ : 排水中の放射能濃度  |
| ★ : 粉じん濃度       | ★ : 空間線量率(作業環境) | ★ : 空気中の放射能濃度  |
| ★ : 表面汚染密度(床)   | ★ : 表面汚染密度(壁)   | ★ : 表面汚染密度(設備) |
| --- : 敷地境界線     |                 |                |

# 受入・分別施設(第2期双葉①工区)における 周辺環境及び作業環境測定結果(月次測定) 2019年3月

## ◆地下水中の放射能濃度等

測定地点	測定項目		電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	放射能濃度 (Bq/L)
	測定日				
上流	2018/9/3	(稼働前)	34	9.7	ND
	2019/3/6	(稼働後)	31	13	ND
下流	2018/9/3	(稼働前)	47	12	ND
	2019/3/6	(稼働後)	89	130	ND

放射能濃度検出下限値：1 Bq/L

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

## ●排気中の放射能濃度

測定地点	測定対象	2019/3/15 (稼働後)
		放射能濃度 (Bq/m <sup>3</sup> )
集じん機A	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機B	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機C	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機D	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機E	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機F	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND

放射能濃度検出下限値：ろ紙部：0.10 Bq/m<sup>3</sup>、ドレン部：0.29 Bq/m<sup>3</sup>

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/m<sup>3</sup>]の限度：セシウム134の濃度/20+セシウム137の濃度/30≤1

## ◆排水中の放射能濃度

排水実績はないため測定なし。

## ★粉じん濃度

測定地点	2019/3/6 (稼働後)
	粉じん濃度 (mg/m <sup>3</sup> )
①搬出 西	0.5
②搬出 東	0.6
③受入 西	0.9
④受入 東	2.1

定量下限値：0.1mg/m<sup>3</sup>、高濃度粉じんの下限値：10mg/m<sup>3</sup>

## ★空間線量率(作業環境)

測定地点	2019/3/6 (稼働後)
	空間線量率 (μSv/h)
①搬出 西	0.16
②搬出 東	0.11
③受入 西	0.06
④受入 東	0.06

## ★空気中の放射能濃度

測定地点	2019/3/6 (稼働後)
	放射能濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )
①搬出 西	ND
②搬出 東	ND
③受入 西	ND
④受入 東	ND

放射能濃度検出下限値：セシウム134：5.0 ×10<sup>-7</sup>Bq/cm<sup>3</sup>、セシウム137：5.0 ×10<sup>-7</sup>Bq/cm<sup>3</sup>

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/cm<sup>3</sup>]の限度：セシウム134の濃度/2×10<sup>-3</sup>+セシウム137の濃度/3×10<sup>-3</sup>≤1

## 表面汚染密度(★床、★壁、★設備)

測定地点		2019/3/26 (稼働後)
		表面汚染密度 (Bq/cm <sup>2</sup> )
床	①搬出 西	ND
	②搬出 東	ND
	③受入 西	ND
	④受入 東	ND
壁	⑤-1	ND
	⑤-2	ND
	⑤-3	ND
	⑤-4	ND
	⑤-5	ND
	⑤-6	ND
設備	(i) 破袋設備	ND
	(ii) 一次分別設備	ND
	(iii) 二次分別設備	ND
	(iv) 可燃物分離設備	ND

表面汚染密度検出下限値：0.73 Bq/cm<sup>2</sup>

NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。

限度：40Bq/cm<sup>2</sup>

# 受入・分別施設(第2期双葉①工区)における 周辺環境及び作業環境測定結果(月次測定) 2019年2月

## ◆地下水中の放射能濃度等

測定地点	測定項目		電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	放射能濃度 (Bq/L)
	測定日				
上流	2018/9/3	(稼働前)	34	9.7	ND
	2019/2/7	(稼働後)	30	11	ND
下流	2018/9/3	(稼働前)	47	12	ND
	2019/2/7	(稼働後)	21	12	ND

放射能濃度検出下限値：1 Bq/L

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

## ●排気中の放射能濃度

測定地点	測定対象	2019/2/12 (稼働後)
		放射能濃度 (Bq/m <sup>3</sup> )
集じん機A	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機B	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機C	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機D	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機E	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機F	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND

放射能濃度検出下限値：ろ紙部：0.1 Bq/m<sup>3</sup>、ドレン部：0.2 Bq/m<sup>3</sup>

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/m<sup>3</sup>]の限度：セシウム134の濃度/20+セシウム137の濃度/30≤1

## ◆排水中の放射能濃度

排水実績はないため測定なし。

## ★粉じん濃度

測定地点	2019/2/1 (稼働後)
	粉じん濃度 (mg/m <sup>3</sup> )
①搬出 西	0.7
②搬出 東	0.6
③受入 西	1.7
④受入 東	1.6

定量下限値：0.1mg/m<sup>3</sup>、高濃度粉じんの下限値：10mg/m<sup>3</sup>

## ★空間線量率(作業環境)

測定地点	2019/2/1 (稼働後)
	空間線量率 (μSv/h)
①搬出 西	0.16
②搬出 東	0.11
③受入 西	0.06
④受入 東	0.05

## ★空気中の放射能濃度

測定地点	2019/2/1 (稼働後)
	放射能濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )
①搬出 西	ND
②搬出 東	ND
③受入 西	ND
④受入 東	ND

放射能濃度検出下限値：セシウム134：5.0 ×10<sup>-7</sup>Bq/cm<sup>3</sup>、セシウム137：5.0 ×10<sup>-7</sup>Bq/cm<sup>3</sup>

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/cm<sup>3</sup>]の限度：セシウム134の濃度/2×10<sup>-3</sup>+セシウム137の濃度/3×10<sup>-3</sup>≤1

## 表面汚染密度(★床、★壁、★設備)

測定地点		2019/2/26 (稼働後)
		表面汚染密度 (Bq/cm <sup>2</sup> )
床	①搬出 西	ND
	②搬出 東	ND
	③受入 西	ND
	④受入 東	ND
壁	⑤-1	ND
	⑤-2	ND
	⑤-3	ND
	⑤-4	ND
	⑤-5	ND
	⑤-6	ND
設備	(i) 破袋設備	ND
	(ii) 一次分別設備	ND
	(iii) 二次分別設備	ND
	(iv) 可燃物分離設備	ND

表面汚染密度検出下限値：0.67 Bq/cm<sup>2</sup>

NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。

限度：40Bq/cm<sup>2</sup>

# 受入・分別施設(第2期双葉①工区)における 周辺環境及び作業環境測定結果(月次測定) 2019年1月

## ◆地下水中の放射能濃度等

測定地点	測定項目		電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	放射能濃度 (Bq/L)
	測定日				
上流	2018/9/3	(稼働前)	34	9.7	ND
	2019/1/16	(稼働後)	31	10	ND
下流	2018/9/3	(稼働前)	47	12	ND
	2019/1/16	(稼働後)	17	10	ND

放射能濃度検出下限値：1 Bq/L

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

(参考) 放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度/60+セシウム137の濃度/90≦1

## ●排気中の放射能濃度

測定地点	測定対象	2019/1/21 (稼働後)
		放射能濃度 (Bq/m <sup>3</sup> )
集じん機A	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機B	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機C	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機D	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機E	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機F	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND

放射能濃度検出下限値：ろ紙部：0.1 Bq/m<sup>3</sup>、ドレン部：0.2 Bq/m<sup>3</sup>

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/m<sup>3</sup>]の限度：セシウム134の濃度/20+セシウム137の濃度/30≦1

## ◆排水中の放射能濃度

排水実績はないため測定なし。

## ★粉じん濃度

測定地点	2019/1/18 (稼働後)
	粉じん濃度 (mg/m <sup>3</sup> )
①搬出 西	0.7
②搬出 東	0.5
③受入 西	1.2
④受入 東	0.8

定量下限値：0.1mg/m<sup>3</sup>、高濃度粉じんの下限値：10mg/m<sup>3</sup>

## ★空間線量率(作業環境)

測定地点	2019/1/18 (稼働後)
	空間線量率 (μSv/h)
①搬出 西	0.16
②搬出 東	0.11
③受入 西	0.06
④受入 東	0.05

## ★空気中の放射能濃度

測定地点	2019/1/18 (稼働後)
	放射能濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )
①搬出 西	ND
②搬出 東	ND
③受入 西	ND
④受入 東	ND

放射能濃度検出下限値：セシウム134：5.0 ×10<sup>-7</sup>Bq/cm<sup>3</sup>、セシウム137：5.0 ×10<sup>-7</sup>Bq/cm<sup>3</sup>

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/cm<sup>3</sup>]の限度：セシウム134の濃度/2×10<sup>-3</sup>+セシウム137の濃度/3×10<sup>-3</sup>≦1

## 表面汚染密度(★床、★壁、★設備)

測定地点		2019/1/28 (稼働後)
		表面汚染密度 (Bq/cm <sup>2</sup> )
床	①搬出 西	ND
	②搬出 東	ND
	③受入 西	ND
	④受入 東	ND
壁	⑤-1	ND
	⑤-2	ND
	⑤-3	ND
	⑤-4	ND
	⑤-5	ND
	⑤-6	ND
設備	(i) 破袋設備	ND
	(ii) 一次分別設備	ND
	(iii) 二次分別設備	ND
	(iv) 可燃物分離設備	ND

表面汚染密度検出下限値：0.67 Bq/cm<sup>2</sup>

NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。

限度：40Bq/cm<sup>2</sup>

# 受入・分別施設(第2期双葉①工区)における 周辺環境及び作業環境測定結果(月次測定) 2018年12月

## ◆地下水中の放射能濃度等

測定地点	測定項目		電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	放射能濃度 (Bq/L)
	測定日				
上流	2018/9/3	(稼働前)	34	9.7	ND
	2018/12/5	(稼働後)	32	10	ND
下流	2018/9/3	(稼働前)	47	12	ND
	2018/12/5	(稼働後)	23	11	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

(参考) 放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度/60+セシウム137の濃度/90≦1

## ●排気中の放射能濃度

測定地点	測定対象	2018/12/10 (稼働後)
		放射能濃度 (Bq/m <sup>3</sup> )
集じん機A	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機B	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機C	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機D	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機E※	円筒ろ紙	-
	ドレン部	-
集じん機F	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND

放射能濃度検出下限値：ろ紙部：0.05 Bq/m<sup>3</sup>、ドレン部：0.2 Bq/m<sup>3</sup>

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/m<sup>3</sup>]の限度：セシウム134の濃度/20+セシウム137の濃度/30≦1

※故障(11/30~12/21)のため測定なし。

## ◆排水中の放射能濃度

排水実績はないため測定なし。

## ★粉じん濃度

測定地点	2018/12/7 (稼働後)
	粉じん濃度 (mg/m <sup>3</sup> )
①	0.4
②	0.5
③	0.2
④	0.2

定量下限値：0.1mg/m<sup>3</sup>、高濃度粉じんの下限値：10mg/m<sup>3</sup>

## ★空間線量率(作業環境)

測定地点	2018/12/7 (稼働後)
	空間線量率 (μSv/h)
①	0.16
②	0.11
③	0.06
④	0.05

## ★空気中の放射能濃度

測定地点	2018/12/7 (稼働後)
	放射能濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )
①	ND
②	ND
③	ND
④	ND

放射能濃度検出下限値：セシウム134： $5.0 \times 10^{-7}$ Bq/cm<sup>3</sup>、セシウム137： $5.0 \times 10^{-7}$ Bq/cm<sup>3</sup>

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/cm<sup>3</sup>]の限度：セシウム134の濃度/2×10<sup>-3</sup>+セシウム137の濃度/3×10<sup>-3</sup>≦1

## 表面汚染密度(★床、★壁、★設備)

測定地点	2018/12/27 (稼働後)	
	表面汚染密度 (Bq/cm <sup>2</sup> )	
床	①	ND
	②	ND
	③	ND
	④	ND
壁	⑤-1	ND
	⑤-2	ND
	⑤-3	ND
	⑤-4	ND
	⑤-5	ND
	⑤-6	ND
設備	(i) 破袋設備	ND
	(ii) 一次分別設備	ND
	(iii) 二次分別設備	ND
	(iv) 可燃物分離設備	ND

表面汚染密度検出下限値：0.69 Bq/cm<sup>2</sup>

NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。

限度：40Bq/cm<sup>2</sup>

# 受入・分別施設(第2期双葉①工区)における 周辺環境及び作業環境測定結果(月次測定) 2018年11月

## ◆地下水中の放射能濃度等

測定地点	測定項目		電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	放射能濃度 (Bq/L)
	測定日				
上流	2018/9/3	(稼働前)	34	9.7	ND
	2018/11/7	(稼働後)	30	9.9	ND
下流	2018/9/3	(稼働前)	47	12	ND
	2018/11/7	(稼働後)	59	14	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

(参考) 放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度/60+セシウム137の濃度/90≦1

## ●排気中の放射能濃度

測定地点	測定対象	2018/11/5 (稼働後)
		放射能濃度 (Bq/m <sup>3</sup> )
集じん機A	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機B	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機C	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機D	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機E	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機F	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND

放射能濃度検出下限値：ろ紙部：0.05 Bq/m<sup>3</sup>、ドレン部：0.2 Bq/m<sup>3</sup>

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/m<sup>3</sup>]の限度：セシウム134の濃度/20+セシウム137の濃度/30≦1

## ◆排水中の放射能濃度

排水実績はないため測定なし。

## ★粉じん濃度

測定地点	2018/11/2 (稼働後)
	粉じん濃度 (mg/m <sup>3</sup> )
①	ND
②	0.1
③	0.3
④	0.3

定量下限値：0.1mg/m<sup>3</sup>、高濃度粉じんの下限値：10mg/m<sup>3</sup>

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

## ★空間線量率(作業環境)

測定地点	2018/11/5 (稼働後)
	空間線量率 (μSv/h)
①	0.15
②	0.28
③	0.06
④	0.05

## ★空気中の放射能濃度

測定地点	2018/11/2 (稼働後)
	放射能濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )
①	ND
②	ND
③	ND
④	ND

放射能濃度検出下限値：セシウム134： $5.0 \times 10^{-7}$ Bq/cm<sup>3</sup>、セシウム137： $5.0 \times 10^{-7}$ Bq/cm<sup>3</sup>

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/cm<sup>3</sup>]の限度：セシウム134の濃度/ $2 \times 10^{-3}$ +セシウム137の濃度/ $3 \times 10^{-3}$ ≦1

## 表面汚染密度(★床、★壁、★設備)

測定地点	2018/11/28 (稼働後)	
	表面汚染密度 (Bq/cm <sup>2</sup> )	
床	①	ND
	②	ND
	③	ND
	④	ND
壁	⑤-1	ND
	⑤-2	ND
	⑤-3	ND
	⑤-4	ND
	⑤-5	ND
	⑤-6	ND
設備	(i) 破袋設備	ND
	(ii) 一次分別設備	ND
	(iii) 二次分別設備	ND
	(iv) 可燃物分離設備	ND

表面汚染密度検出下限値：0.67 Bq/cm<sup>2</sup>

NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。

限度：40Bq/cm<sup>2</sup>

# 受入・分別施設(第2期双葉①工区)における 周辺環境及び作業環境測定結果(月次測定) 2018年10月

## ◆地下水中の放射能濃度等

測定地点	測定項目		電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	放射能濃度 (Bq/L)
	測定日				
上流	2018/9/3	(稼働前)	34	9.7	ND
	2018/10/3	(稼働後)	31	9.6	ND
下流	2018/9/3	(稼働前)	47	12	ND
	2018/10/3	(稼働後)	29	11	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

(参考) 放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度/60+セシウム137の濃度/90≦1

## ●排気中の放射能濃度

測定地点	測定対象	2018/10/9 (稼働後)
		放射能濃度 (Bq/m <sup>3</sup> )
集じん機A	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機B	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機C	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機D	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機E	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機F	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND

放射能濃度検出下限値：ろ紙部：0.05 Bq/m<sup>3</sup>、ドレン部：0.2 Bq/m<sup>3</sup>

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/m<sup>3</sup>]の限度：セシウム134の濃度/20+セシウム137の濃度/30≦1

## ◆排水中の放射能濃度

排水実績はないため測定なし。

## ★粉じん濃度

測定地点	2018/10/5 (稼働後)
	粉じん濃度 (mg/m <sup>3</sup> )
①	0.4
②	0.5
③	2.2
④	0.6

定量下限値：0.1mg/m<sup>3</sup>、高濃度粉じんの下限値：10mg/m<sup>3</sup>

## ★空間線量率(作業環境)

測定地点	2018/10/5 (稼働後)
	空間線量率 (μSv/h)
①	0.13
②	0.25
③	0.06
④	0.05

## ★空気中の放射能濃度

測定地点	2018/10/5 (稼働後)
	放射能濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )
①	ND
②	ND
③	ND
④	ND

放射能濃度検出下限値：セシウム134： $5.0 \times 10^{-7}$ Bq/cm<sup>3</sup>、セシウム137： $5.0 \times 10^{-7}$ Bq/cm<sup>3</sup>

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/cm<sup>3</sup>]の限度：セシウム134の濃度/2×10<sup>-3</sup>+セシウム137の濃度/3×10<sup>-3</sup>≦1

## 表面汚染密度(★床、★壁、★設備)

測定地点	2018/10/26 (稼働後)	
	表面汚染密度 (Bq/cm <sup>2</sup> )	
床	①	ND
	②	ND
	③	ND
	④	ND
壁	⑤-1	ND
	⑤-2	ND
	⑤-3	ND
	⑤-4	ND
	⑤-5	ND
	⑤-6	ND
設備	(i) 破袋設備	ND
	(ii) 一次分別設備	ND
	(iii) 二次分別設備	ND
	(iv) 可燃物分離設備	ND

表面汚染密度検出下限値：0.67 Bq/cm<sup>2</sup>

NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。

限度：40Bq/cm<sup>2</sup>

# 受入・分別施設(第2期双葉①工区)における 周辺環境及び作業環境測定結果(月次測定) 2018年9月

## ◆地下水中の放射能濃度等

測定地点	測定項目		電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	放射能濃度 (Bq/L)
	測定日				
上流	2018/9/3	(稼働前)	34	9.7	ND
下流	2018/9/3	(稼働前)	47	12	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

(参考) 放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度/60 + セシウム137の濃度/90 ≤ 1

## ★粉じん濃度

測定実施なし。(10月から測定を開始)

## ★空間線量率(作業環境)

測定地点	2018/9/29 (稼働後) 空間線量率 (μSv/h)
	①
②	0.21
③	0.06
④	0.05

## ★空気中の放射能濃度

測定実施なし。(10月から測定を開始)

## ●排気中の放射能濃度

測定実施なし。(10月から測定を開始)

## ◆排水中の放射能濃度

排水実績はないため測定なし。

## 表面汚染密度(★床、★壁、★設備)

測定地点		2018/9/25 (稼働後) 表面汚染密度 (Bq/cm <sup>2</sup> )
床	①	ND
	②	ND
	③	ND
	④	ND
壁	⑤-1	ND
	⑤-2	ND
	⑤-3	ND
	⑤-4	ND
	⑤-5	ND
	⑤-6	ND
設備	(i) 破袋設備	ND
	(ii) 一次分別設備	ND
	(iii) 二次分別設備	ND
	(iv) 可燃物分離設備	ND

表面汚染密度検出下限値：0.66 Bq/cm<sup>2</sup>

NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。

限度：40Bq/cm<sup>2</sup>